

拝啓 今年も早や4月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。暖かい春が来ました。近所の公園では桜が終り、はなみずきや新緑がきれいな時期となりました。

今回は、小西芳之助先生の『わが主イエスよ—恵心流キリスト教・説教集—』の5回目で、「第5講 夏休み中の3大発見」と「第6講 お彼岸中に示された一つの大発見」からの引用です。10 ページ「第3の理由 信ずる(心の状態)よりも称名の方が優れている」という項には、次のように書かれています。

「よろしいか。我々の心が乱れているときは、信仰の望みというのはいもうない。我々は危ない。信仰を望むだけに頼ってはい、いつなくなるかわからない、いつも隠れている。

ところが、称名、名を呼ぶということは、心の乱れと共存しうる。恵心僧都は、『妄念のうちより称名せよ』と言った。私は、この意味において、同じであるというよりも、信仰より称名の方がの方が優れていると信ずる。なぜかという、乱れた心と共存しうる。信仰、望みは、乱れた心と共存し得ない。」

小西先生の勧められるとおりに、妄念のままで、称名を続けたいと思います。

4月4日、友人と四谷の迎賓館を見学して来ました。予約申し込み不要で、見学料1500円払えばだれでも見学出来ます。2階に4つの大きな部屋がありますが、実にきれいに修復されて、立派な内装に驚きました。国宝だそうです。そこに天皇、皇后両陛下が、外国の国賓を応対している写真が飾られていましたが、大統領、首相など、色々な国のトップの人と初めて会って、話を合わせるというのも大変な仕事であったらうと思いました。

4月7日、大学時代からの山の会の友人の細田益照君が、4月7日吉祥寺の駅で、くも膜下出血で倒れ、そのまま帰らぬ人となりました。4月12日に葬儀が行われ、私もお別れの言葉を述べました。2年前、脳幹梗塞で突然亡くなられた鳥居勇夫さんの葬儀で、日野原重明先生が述べられたイギリスの詩人サラ・ゲルデネラ・ストックの「天に一人を増しぬ」という詩を引用して、述べました。彼は元気のいい人で、4月20日、21日には、細田夫妻も一緒に筑波山ハイキングに行く事になっていました。

小西先生の伝記の下書きが出来上がり、4月9日細井スワコさん、4月15日石館悦子さんのお宅を訪問し、御意見を聞いてきました。それぞれ貴重なご意見をお聞きしました。

4月20、21日、先に述べました細田夫妻は欠席となりましたが、山の会の友人と3人で、筑波山に登ってきました。ケーブルカーで登り、男体山と女体山に登り、つつじが丘まで歩きました。筑波山は、下から眺めるとなだらかに見えますが、稜線は、結構岩が多く、険しい所もある山でした。男体山の登山路の脇には、カタクリの花が沢山咲いていて、目を楽しませてくれました。

平成が終わり、令和に変わりますが、どうぞ皆様も、お身体ご自愛のほど、祈り申し上げます。

2019年4月23日

山口周三

エンカウンターの読者各位